

平成29年度「みえの防災大賞」、「みえの防災奨励賞」選考理由

「みえの防災大賞」

古和浦親子防災の会（南伊勢町）

「古和浦親子防災の会」は、大災害から子供たちが生き延びることができるよう親子で訓練等の防災活動に取り組み、それを見た地域の大人たちも危機感を持って一緒に防災に取り組むようになることを目的として、平成25年から活動しています。

身近な日用品を使って災害時に役立つ道具を作る「防災キャンプ、ブッシュクラフト体験」や地域のイベントにおける防災スタンプラリーなど、子どもたちを対象とした防災啓発に精力的に取り組むとともに、防災訓練においては、炊き出し訓練を行い、できたおにぎりや豚汁を中学生が配給するなど、子どもたちも積極的に参加しています。

また、親子でタウンウォッチングを行い、危険箇所や避難場所、親子の集合場所を確認するとともに、各家庭の非常持ち出し袋を一次避難所に備蓄したり、古和浦区世帯約9割の備蓄品を収納ケースに入れ二次避難所へ運び込んだりするなど、地域全体を巻き込んだ活動も行っています。

子どもたちに防災への意識づけを図るとともに、親子が一緒になって防災活動に意識的に取り組んでいる点は、地域全体の防災意識の向上に貢献しており、今後の活動の広がりが大いに期待されます。

なお、本団体は、平成26年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。

「みえの防災奨励賞」（50音順で掲載）

県地区女性防災クローバー（四日市市）

「県地区女性防災クローバー」は、男女共同参画の観点から「避難所運営に女性リーダーを」

という考えのもと、災害時の避難所運営等、地域の防災活動に関わる女性を増やすことを目的に活動しています。

平成27年から年3回段ボールトイレづくり、わずかな水やガスを使った調理方法などをテーマに「女性防災教室」を開催し、消防団や地区の自主防災協議会とも連携しながら内容の充実を図っています。

また、「あがたっこ防災」として、小学生が2日間かけて防災について学び、助けられる人から助ける人になれるプログラムを企画するとともに、他地区から「女性防災教室」の開催依頼を受け、市内各地区で積極的な啓発活動を展開しています。

女性の立場で災害時に発生する問題を考え、災害に備えるための意識向上を目指す取組は、男性中心となりがちな防災活動においてたいへん重要であり、他地域への広がりも期待される場所です。

伊勢市アマチュア無線災害ネットワーク（伊勢市）

「伊勢市アマチュア無線災害ネットワーク」は、大規模災害時における避難所や医療機関、行政機関との間の通信手段を確保するため、アマチュア無線家と医療機関と行政とが協力できる体制づくりに取り組んでいます。

平成27年には伊勢市と「災害時における非常無線通信の協力に関する協定」を締結し、避難拠点や医療機関、行政機関とを結ぶ非常通信訓練を実施するとともに、ネットワーク会員が統一した行動ができるよう、日常的な訓練を通じて、正確な情報伝達に努めています。

また、地域の防災イベントに積極的に参加し、災害時におけるアマチュア無線の有効性を説明したり、医師会員による「災害と医療」の講演を行ったりするなど、啓発活動にも力を入れています。

さまざまな組織との結びつきを深めながら、アマチュア無線の技術を活用した防災活動に取り組んでいる点は、地域の安心・安全に寄与しており、他地域への広がりも期待される場所です。

相差自主防災会（鳥羽市）

「相差自主防災会」は、「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主的な防災活動を行うことにより、地震、風水害、火災その他の災害による被害の防止や軽減を図ることを目的に活動しています。

相差町は「海女と漁師のまち」として知られ、観光客も多く訪れる地域ですが、南海トラフ地震の発生時には、短時間で最大13mの津波が到達すると想定されています。

防災タウンウォッチングをもとに相差町防災マップを作成するとともに、海女の皆さんを対象とした津波避難訓練や町内の地理に詳しくない観光客への声かけをしながら一緒に津波から避難する訓練を行うなど、地域の特性を踏まえた防災活動に取り組んでいます。

また、海拔3mの場所にあった保育所について、保護者の代表と相差など周辺5町の町内会長等で委員会を結成して、適切な移転場所を選定し、保育所の高台移転を実現しました。

これらの取組は、他の観光地や津波の浸水が想定される地域においても大いに参考となるものです。

木谷地区防災会（南伊勢町）

「木谷地区防災会」は、地区防災として「木谷みんなで助け合い」をスローガンに、地域住民と別荘地区の居住者が一緒になって防災対策に取り組んでいます。

平成24年に別荘地区の居住者から「災害時どこに避難すればよいのか」等の相談を受けたことをきっかけに、地域住民と別荘地区の居住者で防災の勉強会を積み重ねるとともに、合同で避難訓練や消火訓練を実施したり、訓練終了後に別荘地区の居住者からジェット釜戸の制作方法を学び、炊き出し訓練を実施したりするなど、一体感が生まれています。

また、地区全世帯が二次避難所に衣類や毛布などの生活用品を備蓄するとともに、避難所運営ゲームを通じて、木谷独自の避難所運営を検討するなど、被災後を想定した取組も積極的に行っています。

共に助け合い、災害に強い地域づくりを進める取組は、自分たちの地域は皆で守るという「共助」の理念に合致するものであり、他の地域においても大いに参考となるものです。

橋北地区防災組織連絡協議会（四日市市）

「橋北地区防災組織連絡協議会」は、橋北市民防災隊や自治会、小中学校などの連携を図り、地区全体の総合的な防災・減災意識の向上を目指しています。

消防団とも連携し、橋北消防分団と橋北市民防災隊で合同放水訓練を実施するとともに、小中学校地区総ぐるみ防災訓練として、安否確認、避難誘導、避難所開設、情報収集・伝達のほか、ブロックごとに特色ある訓練を行うなど、地域が一体となった訓練に精力的に取り組んでいます。

また、中学生を対象とした防災講演会やワークショップ、女性による女性のための防災減災教室、小学生とその保護者を対象としたサバイバル飯炊き体験のほか、防災カレンダーの作成・全戸配布など、幅広い層の住民に向けた啓発活動にも力を入れています。

各組織が相互に結びつき、地区全体の総合的な防災対策を進める取組は、他の地域においても大いに参考となるものです。